



男女共同参画の意識調査の結果

◆問い合わせ
企画財政課企画調整班 ☎84-1218

町では、「男女共同参画基本計画」（計画期間平成21～30年度）を策定してから5年を経過していることなどを踏まえ、まとめましたので、一部をお知らせします。詳しくは、町ホームページ(<http://www.town.yokoshibahikari.chiba.jp>)

その進捗状況や男女共同参画に関するみなさんの考えや意見を把握するため、意識調査を実施しました。集計結果をご覧ください。なお、「横芝光町男女共同参画についての町民意識調査報告書」は企画財政課、または図書館で閲覧できます。

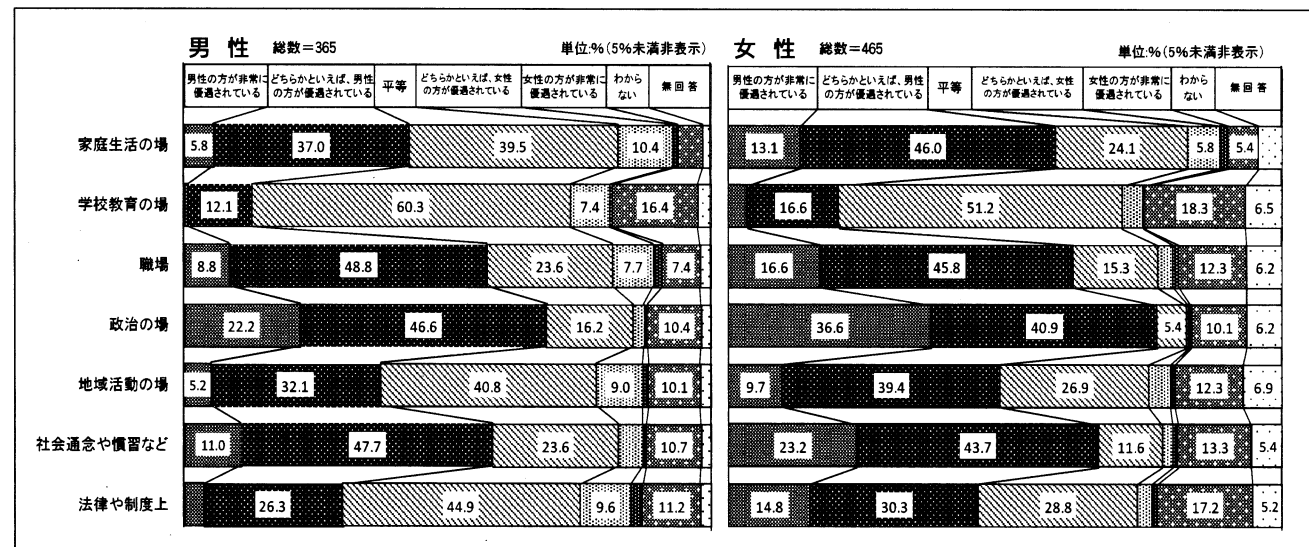
- 調査対象 町内在住の16歳以上の男女2,000人
 - 抽出方法 単純無作為抽出
 - 調査方法 郵送による配布と回収
 - 調査期間 平成26年10月1日～27日
 - 有効回収数 883件
 - 有効回収率 44.2%
- 調査項目 ①男女の平等感について
 - ②家庭生活や地域活動について
 - ③職場について
 - ④女性に対する暴力について
 - ⑤男女共同参画社会実現のために必要なことについて

①男女の平等感

◇学校教育は男女平等、職場、政治の場、社会通念や慣習は男性優遇

家庭生活や学校教育などの7つの分野のうち、男女の平等感は、「学校教育の場」は半数以上が平等と回答していますが、「職場」、「政治の場」、「社会通念や慣習」は「男性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計した割合が高く、男性優遇の分野と考えられ、平成18年の前回調査とあまり変わりません。

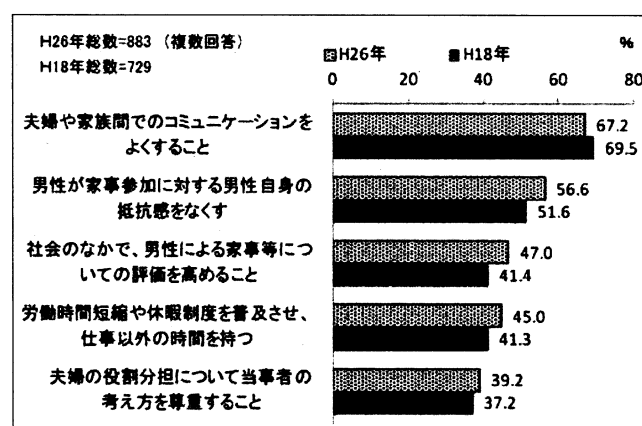
家庭生活での平等感、前回調査に比べると平等の回答が増え、若い世代を中心に平等感が高まっていますが、女性の平等感、男性よりも低く、男女間のギャップが家庭生活に限らず、いずれの項目でも見られます。



②男性が女性とともに家事や介護などに参加するために必要なこと

◇夫婦や家族間でのコミュニケーションが最も必要

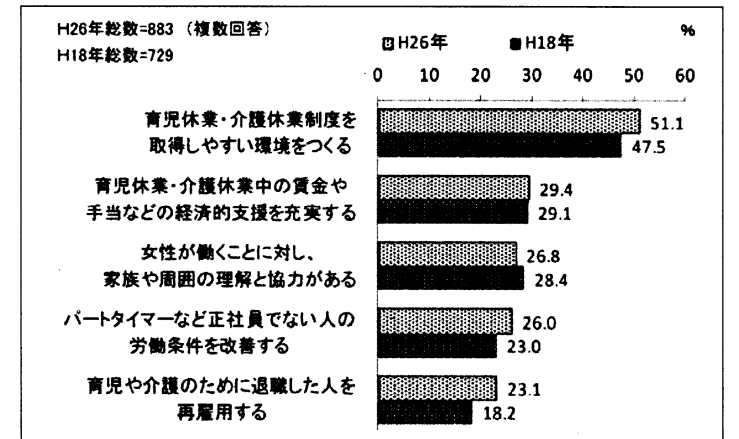
男性が、女性とともに家庭や地域活動などに積極的に参加するために必要なことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくする」が最も高い割合となっています。また、「家事参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」、「社会のなかで男性による家事等についての評価を高める」、「休暇制度等で仕事以外の時間を持つ」などがあげられており、各項目とも前回調査と変わらず回答率もほぼ同じとなっています。



③仕事と家庭の両立のために必要なこと

◇「育児休業・介護休業を取得しやすい環境」をつくるのが最も重要

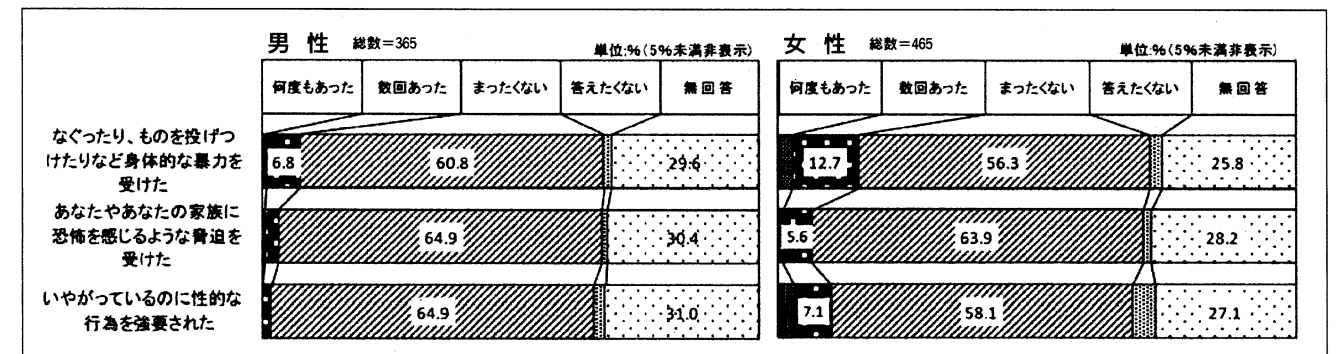
男女がともに仕事と家庭を両立していくため、「育児休業・介護休業を取得しやすい環境」が必要な割合が全体の約半数となっています。また、「育児休業・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援」、「女性が働くことへの家族や周囲の理解や協力」などがあげられており、前回調査と全体的な傾向は変わりません。働き方の見直しなど、ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の調和)実現のための支援が課題といえます。



④配偶者や恋人からの暴力(DV)

◇女性の15%、男性の7%に、身体的暴力の被害経験がある。被害者の6割は誰にも相談していない。

配偶者・パートナーや恋人から、「身体的な暴力」を受けたことが何度もあった割合は約3%、数回あった割合は約12%で、あわせて約15%の女性に被害経験があります。男性の被害経験の割合は女性よりも低くなっていますが、7%が暴力を受けたことがあります。また、脅迫など「心理的暴力」は6%、「性的暴力」は10%の女性に被害経験があります。前回調査と比べると、男女ともに「まったくない」の回答が減り、「無回答」が増えています。暴力を受けたことに対して、誰かに「相談した」との回答は3割となっています。



⑤男女共同参画社会実現のために必要なこと

◇就労の場に関する支援や、子どもと高齢者に関する支援が求められている。

男女共同参画社会実現のために行政が取り組むべきことは、保育サービスの充実や男女が平等に働ける職場環境づくり、女性の就労支援、介護サービスの充実など、老後の生活の安定を支援することなどの割合が高くなっています。

